



ロシアNIS経済速報

社団法人 ロシアNIS貿易会

2011年（平成23年）5月15日号 No. 1528

目次

■ 政府活動報告でプーチンは何を語ったのか	1
■ 統計速報	9
2011年1～3月の日本の対ロシア・NIS諸国輸出入通関実績／9	
2011年1～3月の日ロ貿易／10	
■ 東日本大震災に関するロシアの報道振り	11
■ トピックス	16
伊藤忠、丸紅など、日ロLNG事業化調査／16	
ロゴスホームが極東にモデルハウス／16	

政府活動報告でプーチンは何を語ったのか

はじめに

やや紹介が遅れたが、ロシアのプーチン首相は4月20日、連邦議会の下院で政府活動報告を行った。これは憲法で実施が定められており、毎年この時期に前年の政府の活動実績に関して首相が議会に報告を行っているものである。今回の速報では、同報告におけるプーチン首相の演説のなかから、読者の関心のありそうな部分に絞り、発言要旨を紹介したい。なお、小見出しは小誌で付したものであり、発言の順序などは適宜入れ替えて示している。

今回プーチン首相は、2時間20分にもわたって演説を行っており、前年よりも1時間も長い大演説だったということもあって、内外で話題となっている。また、ロシアでは首相の任期は大統領のそれに連動しており、制度上はプーチン首相はメドヴェージェフ大統領の任期が切れる2012年をもっていったん退任しなければならないのだが、今回の政府報告は今後10年、数十年単位のビジョンを語った箇所が多く、首相としての実績を誇示する語り口と相まって、巷間言われている大統領職への復帰の意欲を裏付けているかのようである。演説中に、メドヴェージェフ大統領への言及がまったくないことも、そうした憶測を強める結果となっている。

参考：演説のロシア語原文→<http://premier.gov.ru/events/news/14898/print/>